

平成31年2月18日

平成30年度病害虫発生予報第11号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病 (防除情報第17号)	多	多
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	少	少
	菌核病	やや少	並
	灰色かび病	やや少	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	やや多
	コナジラミ類	やや少	並
トマト	黄化葉巻病	並	やや多
	灰色かび病	並	やや多
	コナジラミ類 (防除情報第18号)	やや多	多
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	やや多
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	やや少	並
たまねぎ	べと病 (注意報第6号)	多	多
	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	並	並
ブロッコリー	黒腐病	並	並
	べと病	並	並

【発生予報】 本文の () 内は平年値

きゅうり

1. べと病

平成31年2月18日付病害虫発生予察防除情報第17号による。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は4.2%(5.3%)、発生圃場率は58.3%(55.9%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.4%、発生

圃場率14.0%)。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.0%)。

イ 向こう1か月の気温は高く降水量も平年並または多い見込みであり、本病の発生に好適である。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.0%)。

イ 向こう1か月の気温は高く降水量も平年並または多い見込みであり、本病の発生に好適である。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.0%(1.6%)、発生圃場率は25.0%(17.1%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。

イ 薬剤の選定は薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(平成30年長崎県病害虫防除基準P156~P159の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.2%(0.8%)、発生圃場率は8.3%(17.9%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。

イ 本虫は葉裏に多く寄生しているので、かけむらがないように丁寧に薬剤散布する。

ウ 薬剤の選定は薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(平成30年長崎県病害虫防除基準P156~P159の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.9%(0.2%)、発生圃場率は33.3%(23.0%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査(12筆)の結果、果実では発生を認めず(0.0%)、葉での発病葉率は0.2%(過去6か年平均0.3%)、発生圃場率は33.3%(同12.7%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高く降水量も平年並または多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 被害果等の発病部位は伝染源となるので、早期に取り除きハウス外へ持ち出して適切に処分する。

イ ハウス内が多湿にならないよう、曇雨天や気温の低い日もできるだけ換気を行う。

ウ 予防的な薬剤防除に努める。薬剤の選定にあたっては、薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない(平成30年長崎県病害虫防除基準P178~183の「作用機構による分類(FRAC)」参照)。

3. コナジラミ類

平成31年2月18日付**病害虫発生予察防除情報第18号**による。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査(27筆)の結果、葉および果実での発生を認めなかった(発病株率0.1%、発病果率0.0%、発生圃場率1.4%)。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査(27筆)の結果、発病果率0.2%(0.2%)、発生圃場率は22.2%(19.9%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高く降水量も平年並または多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 暖房機の夜間の断続的な稼働や、曇雨天や気温が低い日もできるだけ換気を行うなど、ハウス内が多湿にならないような管理に努める。

イ 被害果等の発病部位は伝染源となるので、早期に取り除きハウス外へ持ち出して適正に処分する。

ウ 過繁茂は果実周囲が多湿になりやすく発病を助長するので、肥培管理を適切にする。

エ 果実では、本病原菌はまず枯死した花卉や雌しべの柱頭に感染・増殖した後、果肉に

- 侵入する。そのため、「さちのか」に比べ花卉が落ちにくい「ゆめのか」では、咲き終わった花卉は極力除去する。
- オ 予防的な薬剤防除に努める。曇雨天が続く場合はハウス内湿度が上がるのを防ぐため、くん煙剤を利用する。
- カ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない（平成 30 年長崎県病害虫防除基準 P210～213 の「作用機構による分類（FRAC）」参照）。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は0.4%（0.4%）、発生圃場率は14.8%（8.8%）であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 2月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は4.5%（5.1%）、発生圃場率は25.9%（41.7%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

たまねぎ

1. ベと病

平成31年2月14日付**病害虫発生予察注意報第6号**による。

2. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（13筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率4.2%）。

3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（13筆）の結果、寄生株率は14.8%（12.1%）、発生圃場率は46.2%（57.3%）であった。

ブロッコリー

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（6筆）の結果、発病株率は1.0%（0.8%）、発生圃場率は16.7%（8.8%）であった。

2. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

2月前期の巡回調査（6筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.0%）。

【参考】

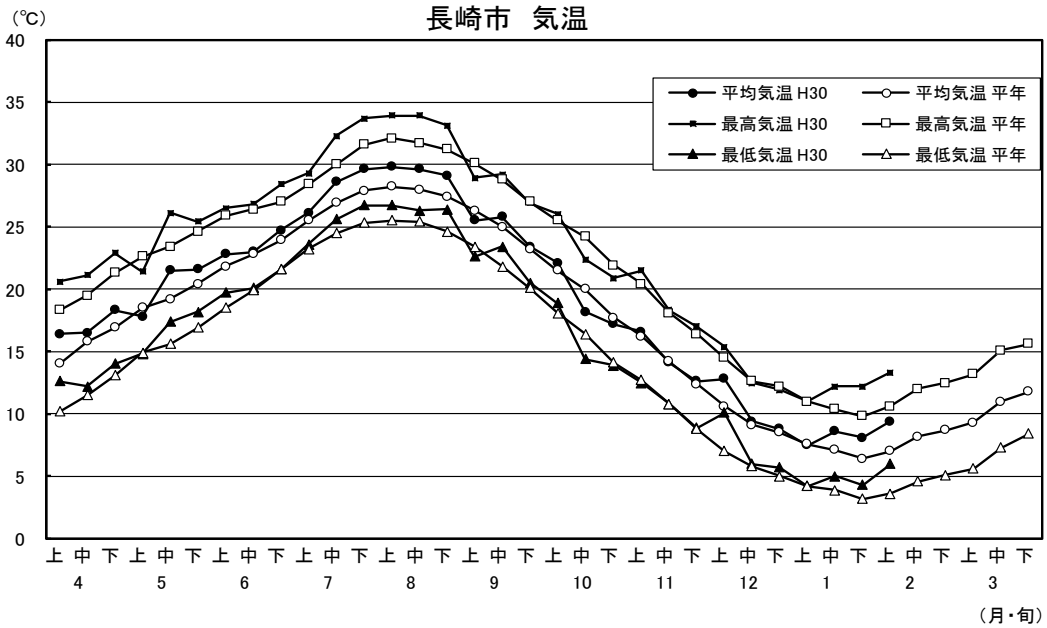
気象 (平成31年2月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	10	80
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

※予報対象地域：九州北部地域

平成30年度の気象経過 (長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

